

第6回 第二期武蔵野市市民活動促進基本計画策定委員会 議事録

- ・日 時 令和3年10月27日(水曜日)午後6時30分～8時30分
- ・場 所 武蔵野市役所 412会議室
- ・出席者 朝岡委員長、見城委員、千種委員、町田委員、森副委員長、渡邊委員、市川委員、北川委員、小島委員(名簿順、敬称略)(見城委員、渡邊委員、市川委員、北川委員はオンライン参加)
- ・欠席者 なし
- ・傍聴者 会場1名、オンライン3名

1 開会

【委員長】ただ今より、第6回第二期武蔵野市市民活動促進基本計画策定委員会を開催します。

【事務局】配布資料の確認

- ・資料1 第二期武蔵野市市民活動促進基本計画《中間まとめ素案》第4章抜粋
- ・参考資料1 次期計画の施策の体系(現行計画との比較)

【委員長】前回 武蔵野プレイスに関する議論があまりできなかったことを踏まえて、本日は武蔵野プレイスの件が記載されている基本施策3から検討したいと思います。

2 議事

(1) 基本施策の検討

【事務局】(資料1 基本施策3について説明)

【委員長】ご質問・ご意見等いただければと思います。

【A委員】21ページの①に「コミュニティセンター等の公共施設におけるWi-Fi整備を進めるとともに、その利用に必要となる機器の整備を図ります」とありますが「その利用に必要となる機器」とは具体的に何をイメージしていますか。

②に「オンラインツールの利活用が可能な人材の育成を推進します」とありますが、どのような人をイメージしているのか、具体例等をあげて説明してください。

【事務局】①の「その利用に必要となる機器の整備」につきましては、オンラインの会議や事業で利用できるパソコン及び周辺機器、例えばWEBカメラやスピーカーフォン等を想定しています。

②の「オンラインツールの利活用が可能な人材」についてですが、オンラインに関して熟知された方が多いわけではありませんので、市民活動団体や施設利用者に使い方を教えられるよう、研修等を通じて習熟していただくことを想定しています。

【事務局】①については、公共施設の運営者側としてはオンライン会議ができるスペックの機器に更新していく必要があります。また、利用者にも貸し出せる機器としてWEBカメラ、スピーカーフォン、三脚、プロジェクター等の整備をコミセンやプレイス等で検討してもよいと考えています。この項目は20ページの②とも関連します。

【A委員】今のような趣旨であれば文言を補足した方がよいと思います。

①では“公共施設におけるWi-Fiやオンライン会議の環境整備”のように具体的なサービス名を入れ、②も「オンラインツール」では漠然としているので“オンライン会議ツール”のように具体化する方がわかりやすく、実態に近いのではないのでしょうか。

【委員長】先ほど事務局が言われたように、この項目は20ページに記載の武蔵野プレイスと関連しているため丁寧に議論したいと思います。この点について、ほかにご質問・ご意見等あればお受けしたいと思います。いかがでしょうか。

【C委員】コミセンでパソコンまで貸し出す必要があるのでしょうか。それが必要なことかどうか、皆様のご意見をお聞きしたいと思います。

【B委員】 予算との兼ね合いもあって何もかも用意するわけにはいかないと思いますので、Wi-Fi環境はありますというところから始めてみてはどうでしょうか。

【F委員】 2点ほど引っかけた箇所があります。

1点目、21ページの①に「コミュニティセンター等の公共施設」とありますが、市民活動の基盤は武蔵野プレイスとコミュニティセンターだけではないと思います。市民会館や武蔵野公会堂、スイングホール等も含まれるのではないのでしょうか。

2点目、先ほどコミュニティセンターでパソコンを貸し出すのかという話をされていましたが、以前、外に発信する際、市役所のパソコンを借りる必要がありました。コミュニティセンターでも施設所有のパソコンを使わなければならないのでしょうか。

【事務局】 1点目については、先ほど委員がおっしゃった施設も含まれているという認識です。2点目については、セキュリティの問題等もあるので、必ずしもコミュニティセンターでパソコンの貸し出しまで行う必要はないと考えております。

【F委員】 ほかのページもそうですが、プレイスとコミュニティセンターしか出てきません。市民活動を非常に狭い範囲で考えられているようで、それが以前から気になっている点です。基盤をもう少し広い範囲でイメージできるような書き方にしていいただければと思います。

【G委員】 20ページの②に「技術指導が可能な体制の整備」とありますが、プレイスで講座を始めた際、市役所から民業圧迫になるのではと言われました。②については技術指導が可能な団体を支援していく体制というニュアンスで読み取ったのですが、その考えでよいのでしょうか。

【事務局】 個人への支援と団体への支援の両方が考えられます。民業圧迫という課題は、個別状況に応じて判断するしかないと考えます。

【委員長】 実態を踏まえた文言を考えればよいわけで、細かく書き込む必要はありません。オンラインツールは超高速で進化しており、そういう意味ではオンライン会議を開くために最新の機器を市民に貸し出すという発想はやめた方がよいと思います。

21ページの①については“すべての公共施設におけるWi-Fi環境の整備を進めます”だけでよいのではないのでしょうか。“すべての公共施設”とすると担当課としての枠を超えてしまいますが、これは武蔵野市における市民活動促進基本計画なので言い切ってよいと思います。

②についても“すべての市民がWi-Fi環境を効果的に使えるような体制の整備を図ります”だけでよいでしょう。“すべての”と記すことが大事で、誰一人取り残さないというSDGsの考え方に繋がります。

①②ともシンプルに書く方がよいというのが私の提案ですが、委員の皆さんいかがでしょうか。

【D委員】 市がWi-Fiを整備するとなるとセキュリティが問題になりますが、その辺りどう考えていますか。

【A委員】 暗号化に関しては問題ないと思います。Wi-Fiはインフラなので思いがけない形で使われる場合もありますが、整備で可能になることの方を重視・優先するという考え方が必要です。公共のWi-Fiを使っていろいろなことをされては困ると言い出すと、何もできなくなります。先ほど委員長がおっしゃったことに賛成です。大きな方針を示したあとは個別の活動にゆだねるというスタンスの方が、何年もの間にわたって市民活動の推進を方向付ける計画にふさわしいと思いました。

【委員長】 公共空間でWi-Fiを整備すると止めることができず更新や定期的なメンテナンスも必要で、なおかつトラブルも許されません。その覚悟は持った方がよいと思います。ただ、今後は市に対する申請もオンラインで行うことになると思いますので、そういう意味ではいずれにしても覚悟を持たなければ遅れた行政サービスだと言われるような気がします。

【D委員】 市もWi-Fi環境については安全性も含め方針を出しており、設置することになっていますが、ここに書くべきかどうかをお伺いしました。この先を見据えて設置することがわかる形で記載した方がよいと思いました。

【副委員長】 「3-1 武蔵野プレイス等の活動拠点施設の機能充実」の③の4点目に「コミュ

ニティセンター等の市民活動の拠点施設におけるコーディネート機能の向上に向けた取組み」とありますが、コミセンで市民活動のコーディネート機能を向上させるという理解でよいですか。

④として「武蔵野プレイスとコミュニティセンター等の施設とが相互に連携した事業展開と情報発信の強化を検討」という新しい文言がある中、これを残しておく必要があるのでしょうか。

タイトルがプレイスの機能充実なのに、ここだけがコミセンの機能向上なので違和感を覚えます。

【C委員】コミセンのコーディネート機能というのは、プレイスが西側に偏っているためサテライト的な取組みを行えばよいのではという提案を受けてのことですか。

【事務局】③の4点目につきましては現行計画にも書かれていまして、それは必ずしもプレイスのサテライトという意味ではありません。サテライトの意味を含んだ項目は④の「施設相互の機能連携の強化」です。

③の4点目は、コミュニティづくりの機能がプレイスだけでなくコミセンにも必要だということの確認のために入れております。

3-1の現行計画でのタイトルは「武蔵野プレイスの有効活用」です。プレイスが10年前に出来た際には有効活用という目的がありましたが、今は十分に認知・活用されているため、ほかの施設も含め全体として機能を充実させていきたいとの意図でタイトルを変えております。

さらには、プレイスの機能を各施設で共有しながら全体として底上げをしていきたいという趣旨でのタイトルです。

【委員長】3-1のタイトルに文言を追加し“武蔵野プレイス及びコミュニティセンター等の活動拠点施設の機能充実”としてはどうかと思います。下の文章も同じように“武蔵野プレイス及びコミュニティセンターの機能の充実”としてはどうでしょうか。

その理由として①以外は武蔵野プレイスとコミセンを並列で書いているのにタイトルが「武蔵野プレイス」になっており、コミセンが「等」に含まれているのがおかしいからです。

③の3点目に記載の「プロボノ」ですが、この名称をあえてここに出さなくてもよいと思います。

【F委員】庁内ワーキングチームの環境政策課から「『市民活動』という言葉自体にハードルの高さがある」という意見が出ており、なるほどと思いました。

そこで、基本施策3や3-1の文章中にある「市民活動の拠点」を“コミュニティ活動の拠点”と言い換えてはどうかと思うのですが、いかがでしょうか。

【委員長】市民活動をコミュニティ活動に置き換えてよいかというのは、結構大きな問題だと思います。庁内ワーキングにおける議論の背景を説明してもらえますか。

【事務局】環境政策課の「むさしのエコrEゾート」の担当者から出た話です。

「むさしのエコrEゾート」は環境系の市民活動をバックアップ・コーディネートする立場ですが、楽しく取り組んでいる自分たちの行動を「市民活動」と捉えられることに重さを感じている方もいるようで、ゆえに「ハードルの高さ」という表現になったかと思われます。

【委員長】市民活動をコミュニティ活動と言い換えたとすれば、双方の違いについての説明が要ります。

仮に市民活動の本来の意味はコミュニティ活動ですと説明すれば、この計画の名称に疑問が生じます。この点について、市としてはどうお考えになりますか。

【事務局】コミュニティ活動といいますと市民活動よりも狭い捉え方になります。コミュニティセンターを拠点にコミュニティ協議会が取り組んでいる親睦的な事業や地域密着型の活動がイメージされるのではないかと思います。

一方、「市民活動」はエリアを超えた特定のテーマ型の活動も含めた広い概念として使っています。

今まで使ってきた市民活動という言葉との整合性及び武蔵野プレイスやほかの公共施設も含めて考えると、幅広い概念である市民活動の方がよろしいかと感じています。

【委員長】市民活動をコミュニティ活動と言い換えるのは魅力的なアイデアですが、武蔵野市ではコミュニティという言葉に複雑な歴史的背景があります。市民活動と言い続けてきたことの意

味や独特な背景を考えると、市民活動という言葉をなくすのは難しいと思います。一部の市民活動についてはコミュニティ活動と言い換えようという提案が妥当な気もしますが、歴史的背景との整合性の問題があるため使い分けはしない方がよいと思います。結論を簡単に出すことはできないので、却下ではなく保留です。今回は文言は修正しませんが、次回以降、経緯や整合性について事務局から説明を受け、引き続き丁寧に議論しましょう。

【事務局】（資料1 基本施策1について説明）

【委員長】17ページの②に「ソーシャルメディアの有効活用」とありますが「有効」は不要です。では、皆さんからご質問・ご意見等あればお受けしたいと思います。いかがでしょうか。

【副委員長】基本施策1の本文に「市民活動への関心が低い、または普段の関わりが薄い人々」とありますが、あたかもそれがいけないかのような読み取り方をされるおそれがあると思います。市民活動のマンパワーが足りていない、継続性を担保するのが難しい実情があるというような客観的な課題を示すことはよいのですが、人に対する表現については配慮が必要だと思いました。

【委員長】文章をもう少しすっきりさせる方がよいと思います。基本施策1の本文の書き出しは“すべての市民が市民活動に最初の一步を踏み出すきっかけをつくるため、市民活動に対する理解や関心の向上を図ります”でよい気がします。

市民全員が市民活動に関心を持たなければならないわけではなく、深く関わる必要もないので「市民活動への関心が低い」「普段の関わりが薄い」という文言は要りません。

【副委員長】1-1の冒頭も「市民活動への関わりが少ない市民に対して関心を促し」となっているので、ここは削除してもよいかと思います。

【委員長】1-1の文章も“すべての市民に対して関心を促し”と修正しましょう。

【事務局】（資料1 基本施策2について説明）

【委員長】ご質問・ご意見等ございますか。

【E委員】三つの視点が必要かと思います。これから市民活動を始めようと思っている方に対する視点、既に始めているがどう継続・発展させていくかを考えている立場の視点、そして参加者の視点です。

これらの視点をうまく入れ込む必要がありますが、どの場面に各視点が入るか、また、どの立場の人も参加しやすい形にするにはどうすればよいかと考えていました。

【委員長】おっしゃりたいことはわかりました。

気が付いたことをいくつか申し上げたいと思います。「再掲」の項目が結構ありますが、これは要らないのではないのでしょうか。原則、一度記載した項目を繰り返し記載する必要はありません。どうしても記載が必要な場合は何ページ参照としておけば、すっきりして読みやすいと思います。2-1の文章中の「公共的」という表記が気になりました。「公共的」よりも“公益的”の方が適切だと思います。市民活動には公益的活動が求められます。公益には世のため人のためという意味合いがあり、市民活動はそれが基本です。

2-1の②に「学生・若者への協力を依頼」とありますが、ここは対象を限定せず“市民等”にした方がよいと思います。

【D委員】2-3の①の2点目に新たな補助金制度としてクラウドファンディングを入れたのですが、まだ検証ができておりません。クラウドファンディングについて経験のある委員からご意見をお聞きしたいです。

【E委員】資金調達に関するサポートは当然有り難いのですが、計画に載せる上ではクラウドファンディングという具体的な名称を入れない方がよいと私は思います。

【F委員】同じ意見です。「クラウドファンディングの手数料補助」というのが妙に具体的で、いかがなものかと思います。そこは削除し“自立的な資金調達に資する取組みを促進するため、情報提供等の支援を行います”だけでよいのではないのでしょうか。

【委員長】そのとおりだと思いますが、情報提供等の支援だけでは財政支援を受けられない危険性があります。

そこで「資金調達に資する取組みを促進するための財政支援や情報提供等の支援を行います」といった財政支援を入れる形を提案したいと思います。

【副委員長】基本施策2の本文ですが、市民活動はプレイスやコミセン以外の活動も含むと考えると、自律が活性化だと読み取れる表現は避けるべきかと思います。2行目の「市民活動の多様性とステージにあわせた支援」が市民活動の活性化だと私は考えます。

災害支援のように役割を終えれば活動自体がなくなるものも大切な活動、プレイスやコミセンのように市民にとってなくてはならないものを継続していくことも必要で、その両方が多様性ではないかと思います。

2-1~2-5はそのための大事な施策ですが、タイトルが「市民活動の自律性・発展性・持続性の向上」で、本文が「自律性を高め、成長・発展を促し、将来にわたり持続可能なものとしていく」となると、私としては違和感を覚えます。“市民活動をより活性化し、多様性とステージにあわせた支援”という文章にされてはいかがかかと思えます。

【委員長】鋭いご指摘でした。まずは基本施策2のタイトルに問題があると思います。“市民活動の多様性と持続性を支援するための施策の充実”のような表現の方がよい気がします。

【A委員】今のご意見はとても重要だと感じます。これまではかっちりとした組織や市民活動への支援を前提としており、単発的な課題に関心のある方たちが一時的に集まる形での活動に対しては支援の枠組みから外れていました。

しかし、今の時代「この指とまれ方式」の市民活動も視野に収めた支援を考えていく必要があると思います。

基本施策2のタイトルもかっちりとしているので、もう少し柔らかい感じで“市民活動を活性化するための環境整備”辺りにしておけばよいのではないのでしょうか。

【委員長】私もその案でよいと思いますが、ほかの基本施策のネーミングとのバランスを取る必要があります。

今の2つの意見でともに重視されているのは多様性ですよね。決まったスタイルのものを支援する方法はやめる意味でも多様性という文言をどこかに入れたいと思います。“多様な市民活動を支援する施策の充実”というのはどうでしょうか。

【A委員】よいと思います。

【委員長】皆さんもよろしいですか。ほかの基本施策のタイトルとのバランスが気になるころではありますが、基本施策2のタイトルを“多様な市民活動を支援する施策の充実”に変えたいと思います。

【事務局】（資料1 基本施策4について説明）

【委員長】ご質問・ご意見等ございますか。

基本施策4の本文2行目に「武蔵野プレイスのほか各機関等」とありますが、なぜ武蔵野プレイスの次に「各機関等」と入っているのだらうと思います。特別な意味があるのですか。

【事務局】23ページの②の3点目に「市民活動支援の全市的な拠点である武蔵野プレイスをはじめとして、市民社協、国際交流協会、コミュニティ協議会など、市民活動支援の役割を果たしている関係機関」とありますように、拠点としてのプレイス及び各機関ということでございます。

【委員長】そこは別として、基本施策4の本文にあえて武蔵野プレイスと記載する必要性はないと思います。

基本施策4のタイトル「連携と協働の推進」ですが、主語がありません。“多様な主体による連携と協働の推進”としてはどうでしょうか。

ただ、本文1行目の「関係主体間」とつじつまが合わなくなる危険性があるので“多様な主体間”にしてはと思います。4行目の最後も“多様な主体による連携・協働の推進”としてはどうでしょうか。

関係主体間にはステークホルダー（利害関係者）という考え方があります。そこを意識して「関係主体間」と表記しているのであれば“多様な”とぼかさず、このままでもよいかもしれません。

少なくともタイトルと文末は“多様な主体による”にするということで、皆さんいかがですか。

(一同賛成)

【F委員】4-2の①の3点目に「『地域フォーラム』の活用」とありますが、唐突に具体的な名称が出てくるのが気になるところです。地域フォーラム自体の認知度が低いので、ここも考え直していただきたいと思いました。

【委員長】「地域フォーラム」と入れたことに意図はありますか。

【事務局】委員がおっしゃったとおり認知度の問題があり、それを高めたいという意図で記載しました。

【委員長】計画書に書くことによる縛りを避けるために「『地域フォーラム』の活用」は削除しましょう。

【A委員】今後に向けての問題提起をしたいと思います。本計画は行政と市民との協働が前提になっていますが、行政の補完的な役割を市民活動が果たすというニュアンスを含んでいる気がしています。しかし、市民活動はもう少し広がりがあるものとして捉えた方がよいと思います。公益性はあまりなくても結果としてコミュニティの活性化につながるような活動も、市民活動に含めることができればよいと考えます。

そういう意味で市民活動の定義をもう少し整理する必要がありますし、本計画における連携、協働の意味についても議論したいと思います。

【委員長】大事な論点だと思います。連携と協働がセットで使われているが、意味の違いも含めどうするのかという話です。

行政は黒子の方がよいような気がします。行政が市民と協働して何かをするのではなく、市民が主体的に活動できる環境を行政が積極的に整備するというスタンスが望ましいと思います。そういう意味からも、行政が主体というイメージでない方がよいと私は考えます。

【事務局】行政の中でもこの10年で協働の概念は変化しております。行政と市民との協働だけではなく市民相互、あるいは企業や行政以外のセクターも含めて協働と呼んでいこうということで自治基本条例や現行計画で定義づけ、幅広く捉えている状況です。

【委員長】今の説明に納得していません。随分広がっていることはわかったのですがそこは評価しますが、まだ行政が中心になっていると思います。

今回 文言の修正はしませんが、議論は必要です。市民活動とコミュニティ活動の違いや使い分けと併せ、連携と協働の考え方や内容についても議論しましょう。

先ほど私が提案した“多様な主体”というタイトルにすると、行政と市民ではなくなるため随分イメージが違ってきます。多様な主体の一つに行政が入ることになり、そういう意味では多角的なイメージになると思います。

いずれにしても議論したいと思いますので、またよろしくお願いします。

【E委員】4-1の②の1点目では市民という表記がありますが、ほかの箇所は団体のみの表記です。団体単位ではなく個人レベルでの市民活動への参加が流れとしてありますし、ハードルを下げるという観点からも、個人でも参加できるといった書き方に変える方がよいと思います。

【委員長】②の1点目には個人の意味で市民という言葉が入っており目配りができているので、これでよいと思います。ただ、2点目と3点目は団体のみの表記になっています。団体の前に市民を付け加えた方が一貫性のある感じでよい気がします。

【E委員】統一感がないとそこに引っかかる方もいますし、委員長がおっしゃったような形にしていれば個人でも参加しやすくなるかと思います。

【委員長】今日の議論はそろそろ終わりにしたいと思います。これを中間まとめ素案として公開するということがよろしいですね。追加のご質問・ご意見等ございますか。

【C委員】市民なのか団体なのかという議論が出ていますが、前の計画ではコミュニティ活動も個人の活動も含めて市民活動だと考えているとうたわれています。そこに立ち返って文言を整理するべきだと改めて思いました。

最終的には武蔵野市における市民活動の概念を一定のものとしてうたい込んでいかねばならないと考えております。

【委員長】大事な論点を出していただきました。結論は保留ということで、今後も時間の許す限り繰り返し議論したいと思います。それでは事務局にお返しします。

(2) その他

3 事務連絡

【事務局】次回は11/12を予定しています。11/4・5を目途に全体版を委員の皆様にお送りいたしますので11/8までにご意見を頂戴できればと考えております。そして修正した案を11/12の委員会で改めて皆様にお示ししたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

【委員長】今回は4章のみの抜き刷り版でしたが、中間まとめそのものは前後が付きますので、それについてお気付きの点等あれば事務局までご意見をお寄せいただきたいと思います。

4 閉会

【委員長】長時間にわたりまして、ありがとうございました。とても充実した議論ができたと思います。またよろしくお願ひいたします。

以上